

第1章 はじめに

I 健康おきなわ21（第2次）の趣旨・経過

- 沖縄県では、平成14年1月、県民の「早世の予防」、「健康寿命の延伸」、「生活の質の向上」を目的とする県の健康づくりの指針として、「健康おきなわ2010」を策定した。
- 平成20年3月には、「健康おきなわ2010」の目的を引き継ぎ、長寿世界一復活に向けた21世紀における沖縄の行動計画として「健康おきなわ21」へ改定し、県民の健康づくり運動を推進した。
- 一方、国が公表した平成22年の都道府県別生命表で、沖縄県の平均寿命は男性が79.40年、女性が87.02年となり、平成17年の平均寿命より男性0.76年、女性0.14年延伸したものの、全国平均の男性0.80年、女性0.60年より男女とも下回った結果、全国順位は男性が平成17年の25位から30位へ、女性は1位から3位へと順位を下げる結果となった。
- この状況を踏まえ、沖縄21世紀ビジョン基本計画に掲げている、「健康・長寿おきなわ」の維持継承を図り、「2040年に男女とも平均寿命日本一」を長期的な目標として設定するとともに、「健康おきなわ21（第2次）～健康・長寿おきなわ復活プラン～」を平成26年3月に策定した。
- 健康おきなわ21（第2次）に基づき、「早世の予防」「健康寿命の延伸」を図り、「平均寿命日本一おきなわ」の復活を目指し各種取組を推進してきた。
- 計画期間は平成26年度から令和4年度までであったが、国の「健康日本21(第二次)」の終期延長に伴い、令和5年度までに延長した。

沖縄県の重点的に取り組む事項

健康・長寿おきなわを維持継承し、20～64歳の年齢調整死亡率を改善するために、平成24年度に実施された「健康おきなわ21」の中間評価を踏まえ、優先度が高く、かつ効果が大きい下記の3つの項目について本計画では重点的に取り組みます。

① 特定健診・がん検診の受診率向上

生活習慣病の発症予防を目的に実施している特定健診や、がんの早期発見を目的に実施しているがん検診は低迷しています。本県の死因の約50%を生活習慣病が占めており、自覚症状のない生活習慣病は、特定健診・がん検診を受けることが健康づくりの第1歩と考え、受診率向上と併せて特定保健指導実施率と精密検査受診率向上に取り組みます。

② 肥満の改善

本県ではこれまで、平成17年度から「肥満対策」を重点課題に設定し対策を推進してきましたが改善がみられず、メタボリックシンドローム該当者・予備群ともに全国ワースト1位です。

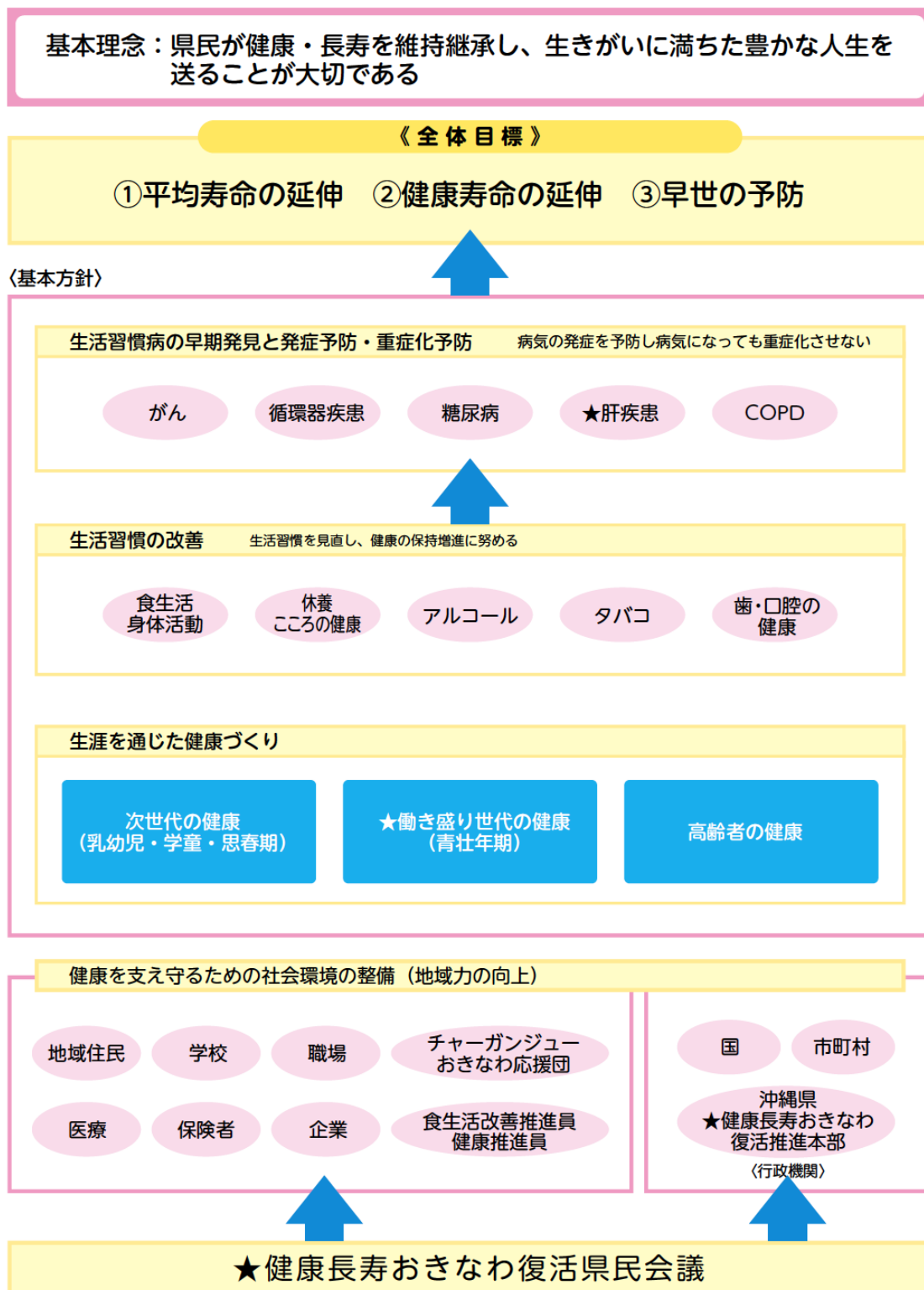
生活習慣病の発症リスクを高める肥満の改善を次世代や働き盛り世代などに、引き続き取り組みを推進していくことが重要となっています。

③ アルコール対策

本県の年齢階級別死亡率で肝疾患は、男女ともに全国ワーストであり、特に30～50代の死亡率が高い状況にあります。また、アルコール性肝疾患の死亡率（人口10万対）は、沖縄男性12.6人、全国男性6.6人、沖縄女性1.1人、全国女性0.8人と全国と比較して高い状況にあるため、生活習慣病の発症リスクを高める量の飲酒を減少するための取り組みを個人だけでなく地域や職場等、社会全体で推進していくことが重要となっています。

重点項目	課題	目標
重点1 特定健診・がん検診の受診率向上	特定健診・がん検診の受診者が少ない (精密検査受診含む)	特定健診・がん検診受診率(精密検査受診率)の向上
重点2 肥満の改善	肥満者(肥満傾向児)が多い	自分の適正体重を知り維持している者(児)の増加
重点3 アルコール対策	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者が多い	生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者の減少

(出典) 健康おきなわ21 (第2次)



★は本県が新たに「健康おきなわ21（第2次）」より設定したもの

(出典) 健康おきなわ21（第2次）